

子どもたちをとりまく状況を考える

「いま、スクールソーシャルワーカーとして-学校現場での取り組み-」

講師 **入海英里子さん** (杉並区教育委員会済美教育センター; スクールソーシャルワーカー・
NPO 法人エンパワメントかながわ 理事)

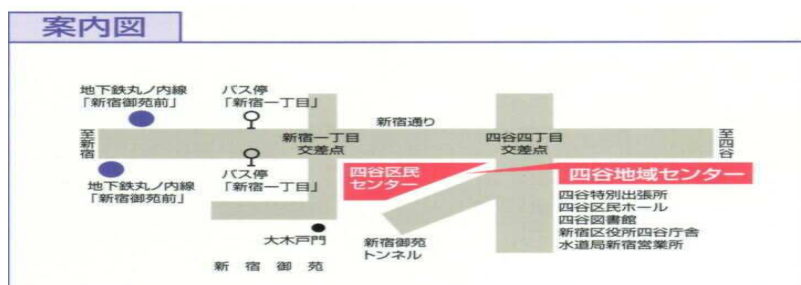
日時 2010年4月8日(木) 午後6時半から8時半

会場 **四谷地域センター (11階 集会室3)** 東京都新宿区内藤町87番地

貧困、虐待、いじめ、差別、暴力。こうした厳しい社会状況のなかで、子どもたちは様々なかたちで苦痛をうったえ、悲鳴をあげています。

子どものかかえる問題の解決を内面に探すのではなく、子どもをとりまく環境に焦点を当て、学校をベースとしながら家族や教師、友人、地域など、その子どもをとりまく様々な人々の関係を調整し再構築することで問題解決を図ろうとしていく「スクールソーシャルワーク」の実践は、欧米ではすでに数十年の活動の歴史をもっています。日本では、1980年代中頃からモデル的な活動が始まり、2000年以降、いくつかの自治体で導入されてきました。その動きを受け、文部科学省は2008年度より「スクールソーシャルワーカー活用事業」を導入したのですが、本来の理念や役割が学校現場にほとんど知らされないままの導入であったため、さまざまな混乱も生じているようです。今回、杉並区のスクールソーシャルワーカーとして活動されている入海英里子さんに学校現場でのお話をさせていただきます。杉並区では、国に先んじて2007年度からこの事業に取り組み、2010年度からは独自の予算をもうけ運用しているとのこと。

一人ひとりの子どもたちが希望を持てるような、そして安心してのびやかにそれぞれの可能性を十分に発揮できるような環境を作り出すためには何が必要なのか。ゆっくりお話を伺いましょう。(資料代 500円)



主催 子どもと法・21 (問い合わせ 03-3353-0841)

<http://www.kodomo-hou21.net/>